

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 大衡村立大衡中学校 】

1 実践テーマ	I・II・Ⅲ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	1学年・2クラス・42名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総 合) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	知的障害者とスポーツを通して交流し、誰に対しても温かい思いやりの心を持って接する態度を育てる。
5 取組内容	<p>5/28 スペシャルオリンピックス日本（SON）・宮城の事務局と事前打合せ〔1学年教員対象〕</p> <p>6/27 スペシャルオリンピックスの事前学習会(行事の概略説明と競技会での役割確認)〔1学年生徒対象〕</p> <p>10/17 スペシャルオリンピックスのリハーサル</p> <p>11/ 3 スペシャルオリンピックス当日</p>
	   

<p>6 主な成果</p>	<p>事前指導では、スペシャルオリンピックスの事前学習会やリハーサルを行い、これらの活動をとおしてスペシャルオリンピックスの意義を理解することができた。また、キャップハンディ体験を実施したことで、より一層障害者に対する理解を深めることができた。このような事前の基礎知識を得たことで、当日の活動はもちろん、事前の準備にも熱心に取り組むことができた。</p> <p>事後指導では、体験レポート（個人新聞）とアスリートへのお礼状の作成を行い、生徒たちは障害者に対する思いや考えを深めることができた。</p> 
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>スペシャルオリンピックスを行う前に、大衡村社会福祉協議会の協力の下、キャップハンディ体験学習を実施した。グループごとに分かれ、車椅子や白杖、ボッチャの体験を行い、障害に対する理解を深めた。また、事前の学習会やリハーサルを積み重ねたことにより、当日の活動をスムーズに進めることができた。さらに、グループごとにアスリートやそのファミリーと一緒に昼食をとる時間を確保したり、応援し合ったりすることでより交流を深められるように工夫した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>当日の活動に向けての準備に時間がかかった。運営にかかわる役割分担の確認だけでなく、オープニングのダンス練習、応援用の横断幕やうちわの作成など、事前に準備しなければならないことが数多くあり、他の活動との調整をしながら対応を図った。また、今回の活動を継続するのであれば、一過性のイベントで終わらせるのではなく、次年度以降、系統的にさらに深化させていくことが課題である。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>現時点では、来年度以降の実施は未定である。活動の意義は大きい一方で、準備に時間がかかり、実施する際は実施内容の簡略化など検討が必要である。</p>